

## 続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.13)

### 「成功は三度目の試みで達せられる？」

・・・何度チャレンジしても難しいものは難しい・・・

諺のなかには、「三」の数字に関するものがいくつかあるが、その内の一つとして、「三度目の正直」というのがある。これは、物事は一度や二度では当てにはならないが、三度目には期待通りの結果になるということのようだ。確かに、同じ事を継続して行なっていれば、この諺どおりになる確率は相当高まるだろう。

スペイン語の諺にも、以下の通りこれに類するものがあり、今回もタイトルにちゃっかりと借用した。

「**El éxito suele llegar a la tercera tentativa**」(エル エクシト スエレ ジェガール ア ラ テルセラ テンタティバ と発音し、直訳的にはタイトルから疑問符を取り除いた意味)というもので、実に日本語の諺と意識は似ているではないか。サブタイトルは少しばかりカーブを利かせている。

今回の報告は、メキシコ人気質と私のミッションとの因果関係、さらにはこの諺に関する相対関係の、高尚？かつ私的考察を試みるものである？？？！

日常的サラリーマン生活を送っていたある日、突如命により中米グアテマラ国へ、「電気通信専門家」として派遣されたのが、最初の海外経験で、第四次中東戦争によるオイルショックの影響で、トイレットペーパー買占め騒動直後の、1974年2月のことであった。

40歳前の社会的には働き盛りの年の頃で、海外生活は右も左も分からぬ初年兵状態から、幾星霜、時は流れて4分の1世紀以上を過ぎた、2005年11月から2年間を、過去に得た貴重な経験を、出来るだけ多くの人に恩返しをしようという気持ちで、会社を辞し、ボランティア活動を行なう為メキシコで過ごすことになり、そして、この度の再度のボランティア活動への参加である。

従って、私の海外勤務は回数からして、百戦錬磨の古参兵とまではあるが、時間がたち、国が変わり、業務内容も変わるなどして、気分的には相変わらず初年兵として、この諺どおりにはことは推移し難いと思っている。

ラテン民族が有している自由闊達的な性格と、過去の歴史的感情から来る内面的な反発心、第三世界のリーダーとして活躍し、中南米での盟主を密かに自認しているため、相手の思惑など気にしない、強烈な自己主張。ときにはこれらが混ざり合った、複雑な感情等々。滞在国の国民性の全容をあまねく語るのは難しいが、私の感じている彼らの性格の一面性である。

メキシコ国民全部がこのとおりとはいえないまでも、私が先回の派遣で相手にしてきた技術指導対象者は、国営研究所の高学歴のエリート層が多いので、多くの人がこの特色に近い考えや態度を有している。従って、今回のミッションもこの傾向との、しのぎあいが続くだろう。

私とえば、上記のメキシコ人気質に対極する、ほぼ正反対の性格を有していると思っている。本来交じり合わないものを、混ぜ合わすことを化学実験では、「乳化作用」とよんでおり、実験ではこの作用を促進させ



る、界面活性剤というものが存在するが、与えられたミッションのなかで、界面活性剤に相当するものを見つけ出し、どのように相手と同化しながら、目標としたことをやり遂げるか悩みが募ってくる。

少しでも諺の意味していることに近づけようと、相手に、「教える」などと言う大上段から構えた大層なことよりも、相手から何を聞かれても、即座に答えられるように事前準備を十分に行い、聴講生と一緒に考える雰囲気を作ろうと努力しながら、良好な人間関係を保とうと心がけるしかない。

一方では、たかがボランティア活動ではないか。3度目に成功しなくても、「七転び八起き」という、もっとすさまじい執念を感じさせる言葉もあるではないか。振りかえってみれば、過去には七転びばかりでなく、それ以上に転び転がされてきたではないか。いまさら何をあせるのだ、などなどの言葉が頭を駆け巡る。

しかし、このうえさらに七転びもしたら、私の寿命は尽きてしまう。こんなことを考えていたら、三の連想で思わず歌が口ずさまれた。

一日一歩 三日で三歩 三歩進んで 二歩さがる

人生は ワン・ツー・パンチ 汗かき ベそかき 歩こうよ

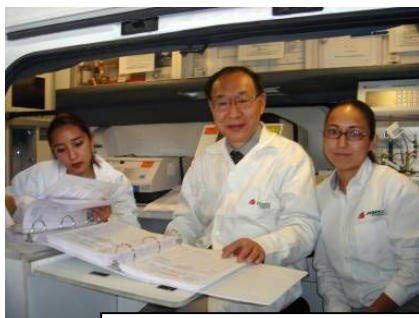
あなたのつけた 足あとにや きれいな花が 咲くでしょう

(星野哲郎作詞、米山正夫作曲、水前寺清子歌、「三百六十五歩のマーチ」の一節)

この度の世界的な新型インフルエンザの流行で、一時帰国の自宅待機中、外出も殆どせずに時間的余裕が出来た。はたと考えたことは、この一時帰国は、上記のような複雑な悩みも浮かんで来たが、一方では神が与えてくれた、冷静になるための頭を冷やす、良い機会だったのだと。

一日一歩、三日で三歩、三歩進んで、二歩さがる。肩肘張って過ごすことではなく、綺麗な花が咲くかどうかは分からないが、自然体でいくことにしようとの思いに至った。

(2009年6月07日、メキシコへ戻った最初の休日に書きました)



ボラッチョ・ボニート氏の先回派遣のミッションの一例(出張個別指導と集中講義)